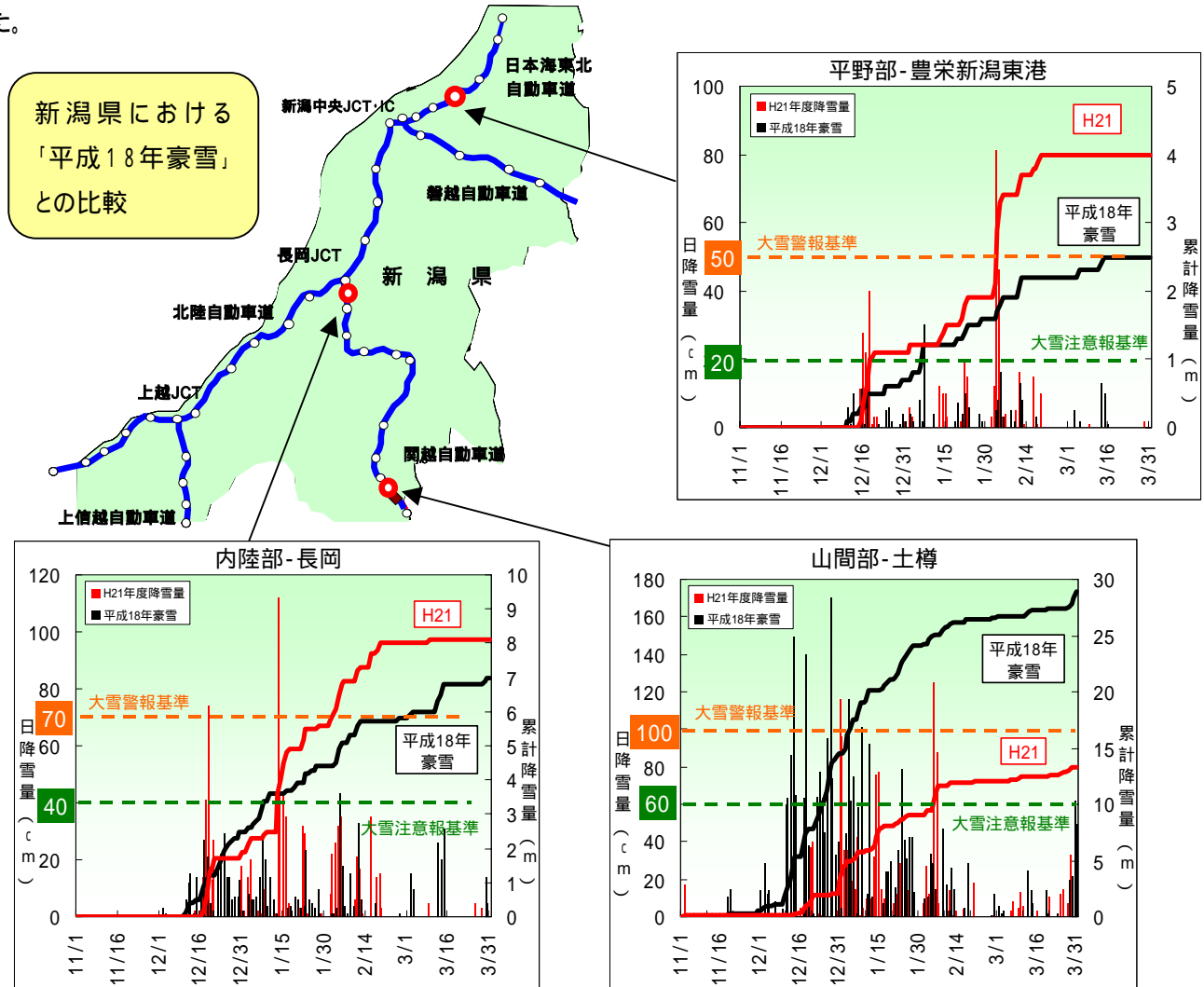


降雪の影響について

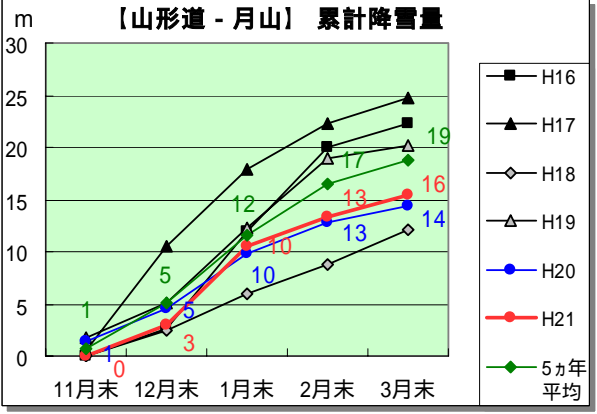
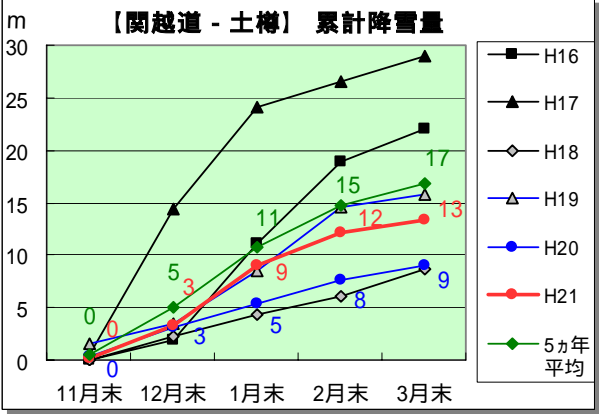
1. 冬の天候

今冬の降雪状況は、強い寒気の影響を受けた12月中旬、年末年始、1月中旬、2月上旬に、各地で大雪となり、特に、新潟県などの日本海側を中心に「平成18年豪雪」以来の大雪となった。また、2月には東京でも降雪を観測した日数が10日におよぶなど首都圏でも大きな影響を受けた。

11月からの累計降雪量は、関越道の土樽(新潟県)で約13mで、過去5ヶ年平均(H16~H20)累計降雪量(17m)の約80%、山形道の月山(山形県)では約16mで、過去5ヶ年平均の累計降雪量(19m)の約80%となった。



NEXCO東日本管内の累計降雪量



2. 降雪の影響による通行止実施状況

降雪の影響による通行止量()は、上記同時期の間、約113,400km・hで、過去5ヵ年平均(H16～H20)の通行止量(約134,200km・h)の約80%となった。

通行止量

通行止を実施した区間距離に通行止時間に乗じた通行止の絶対量を表す指標。

$$\text{通行止量 (km・h)} = \text{通行止区間距離 (km)} \times \text{通行止延べ時間 (h)}$$

通行止量による対比

